平成２８年度第１回西宮市協働事業提案審査会　会議録（要約）

日　時：平成２８年４月１８日（月）１３時００分から１５時３０分
場　所：西宮市職員会館３階大ホール
出席者：【委　員】直田 春夫（会長）、川東 美千代（副会長）、横田 祥子
　　石井 道信、小林 信治
　　【事務局】市民協働推進課長　谷口 博章、
　　同係長　松野 歳之、同副主査　後藤　理恵、同主事　平賀 由佳理

○開会
　市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。
　その後、プレゼンテーションの方法について事務局から説明。

○事務局
　１提案につき２０分を予定。事務局説明・提案者から補足説明 PR で約５分、委員からの質疑に約１５分。会長進行で開始。

１番目の事業**「ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）養成から交流・実践活動へ」**について
○会長
　事務局から説明を。
→事務局から事業概要の説明。
　では提案者から、事業説明、PR をお願いしたい。
→提案者から事業の説明。
　では、各委員からの質問をお願いする。

○委員
　西宮コミュニティ協会においても、各地域で多世代交流事業に取り組んでいる。他団体とも連携してうまくやっていただきたい。
◇提案者
　今年度は、昨年度に拠点としていた甲子園の二番町ハウスから離れて、市内 3 ヶ所での講座開催を考えている。昨年度に取り組んだ多世代交流事業は、今回の提案事業とは別事業として続けていきたい。

○委員
　収支予算書においてチラシ 2,000 枚分の印刷製本費を計上しているが、配布場所はどこを考えているか。
◇提案者
　会場周辺の自治会、社会福祉協議会の各分区、図書館や市民交流センターなどの公共施設での配布を考えている。それに加えて、西宮市では様々なサポーターが生まれているので、そのような方

たちにもメーリングリストなどを活用して、情報発信をしていきたい。

○委員

青少年の参加なども考えているか。

◇提案者

今回の事業は、認知症サポーターや地域住民を主な対象としているが、青少年世代にも事業を通じてメッセージを届けることができればと考えている。

○委員

最近は、地域貢献に関心のある学生が増えつつある。若い世代が参加すれば、雰囲気がより明るくなることも期待できるので、若い世代への参加呼びかけということも考えてはどうか。

◇提案者

開催予定地の一つである特別養護老人ホームには、地域住民が集えるカフェが設置されているので、そのようなメッセージも出せると思う。

○委員

昨年度のアンケートで、「たくさんの子供に聞いてほしいが、この人数だから良いのかなと思いました。」という意見があったように、講座の内容に見合った参加人数というものがあると思われる。事業規模を広げるだけでなく、適切な事業内容となるように、収支予算を含めてしっかりと検討していただきたい。

◇提案者

分かりました。

○委員

非常に素晴らしい活動であり、このような活動が市内の様々な場所で広がっていくことを期待する。ところで今後の展開についてはどのように考えているか。

◇提案者

今年度は、昨年度よりも開催場所や参加人数を増やすかたちで企画したのだが、一方で少人数のアットホームな雰囲気での開催を望む声もある。また、各地域のつどい場などでキャラバン的に開催していく方法や多数の参加者を募っての開催など様々な展開方法が考えられるが、今後は市や社会福祉協議会とも意見交換をしながら、市内全域で展開できる方向につながっていけばと考えている。

○会長

担当課にお聞きしたい。市は昨年度の事業をどのように評価しているか。

◇担当課：地域共生推進課

認知症地域ケア推進事業として認知症サポーター養成講座を開催しているが、サポーターを実際の活動につなげるには至っていなかった。昨年度、サポーターを実際の活動につなげるための事業に提案者と協働して取り組んだところである。市では、サポーター養成講座の受講者を対象にしたフォローアップ研修を今年度から開催する予定であるが、昨年度の事業内容やアンケート結果が研修実施にあたっての参考になるものと考えている。

○会長

結果的に良い方向につながったのは喜ばしいことであり、協働事業としてふさわしいものと考える。ところで、昨年度のアンケートで、「現場での対応力・実践力を勉強したい。」との声があったが、今年度の養成講座においてこのあたりをどのように伝えていくのか、お考えを聞かせていただきたい。

◇提案者

昨年度の講師や他市で回想法を実践されている方など、経験豊富な方々の協力を受けて、効果的な講座内容を組み立てていきたい。

○会長

開催場所の一つとして特別養護老人ホームをあげているが、現場での体験なども考えているのか。

◇提案者

参加者、入居者、職員、地域住民にお越しいただき、交流を通じて様々な体験をしていただければと考えている。

○会長

みんなの生きがい作りをキーワードとしてあげているが、その対象は？

◇提案者

受講者に限らず、その場にいる人々が自分の思いを語り合うことで、みんなの生きがいにつながると思う。また、昨年度の受講者の中には、実際に特別養護老人ホームでボランティアを始めた方もいるので、事業を通じてこのような輪を広げていきたい。

○会長

時間が来たのでこれまで。結果は後日、事務局からお伝えする。

２番目の事業「**『ぐるっと生瀬』地域活性化事業**」について

○会長

それでは、事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

提案者から PR をお願いしたい。

→提案者より PR あり。

では、委員から質問をお願いしたい。

○委員

生瀬以外にお住まいの方向けに、コミュニティバスで生瀬を見学できるようなコースを作るなど、提案団体の取組みが観光にもつながればいいと思う。また、コミュニティバスの活用により自治会同士の交流が生まれ、それが地域の活性化につながることを期待する。

◇提案者

各地域の行事・イベントの時間帯にあうようにコミュニティバスの時刻を調整するなど、バスを活用した他地域からの参加を促す仕組みを検討している。自分の地域だけでなく、他の地域のことを知っていただく機会を作りたい。

○委員

マスコットキャラクターの製作費・材料費として計 10 万円を計上しているが、私の地域の商店街でマスコットキャラクターの作成を業者に依頼した際は 60～70 万円程度の費用がかかった。地域の力で作成するとのことだが、本当に大丈夫か。

◇提案者

作成については地域に堪能な方がいるので、その方にお願いしようと考えている。

○委員

最終的には生瀬地域に移り住む人を増やそうというお考えがあると思うのだが、隣接する宝塚市など、地域の外に向けて生瀬の良さを分かってもらえるようなＰＲも考えてはどうか。

◇提案者

協議会の会報を生瀬地域 3,800 世帯に全戸配布しているが、他地域や市外に向けてはホームページで広報を行っている。今回の事業では市のネットワークを活用したマスコットキャラクター等の公募を考えている。

○委員

提案団体の会則では、交通不便地域の解消と住民間コミュニケーションの創造が団体の目的となっているが、その中で、どうしてマスコットキャラクターの作成が出てくるのかが理解しにくい。運行協議会として、もっと他にもやれること、やらなければいけないことがあるのではないか。

◇提案者

バスの本数、コース、料金面など、コミュニティバス運行自体の課題がまだまだたくさんあり、引き続き検討が必要と考えているが、その一方で、多くの方にコミュニティバスを利用していただくとともに、地域の活性化を図っていく上で、地域の顔としてみんなに愛着を持ってもらえるキャラクターの作成が必要と考え、今回の事業を提案させていただいた。

○委員

マスコットキャラクターの作成による効果と助成金のバランスについてご一考いただきたい。

○委員

コミュニティバスの本数はどのようなものか。また、安全面についてはどのように考えているか。

◇提案者

1 日 5 便、90 分で 4 つの地域を回っている。1 日あたり 80 人程度の利用があり、100 人の利用があれば、市の補助金を受けずに運行が可能となる。利用者数を増やすには、料金の値下げや増便などが考えられ、実際にそのようなニーズもあるのだが、コミュニティバスの運行は行政サービスでなく、地域の力で支えられているものであり、事業として成立するかどうかを勘案しながら事業を進めていかなければならない。

安全面については、試験運行と本格運行の期間を通じて、事故や運休はこれまで一度もなかった。今後とも安全・安心に十分配慮して運行していきたい。

○会長

コミュニティバスの運行は全国的に広がっているが、その中で、地域の力でバスを運行し、行政の負担をできるだけ減らそうという方向性に非常に高い志が感じられる。

今回の提案内容は、バスの運行自体ではなく、この事業を起爆剤にして地域活性化を図るというものであると考える。マスコットキャラクターの作成は、地域活性化の一つの出発点としては有効であると考えるが、ただ単にキャラクターを作るだけであれば、それは協働事業としてではなく地域でやってくださいという話になる。この取り組みを足がかりにして、バス運行の維持が地域の維持につながるという意識の醸成や、住民の中で地域活性化の機運を高めるようなしかけを作っていただければと考える。

◇提案者

生瀬の自治会のうち、コミュニティバスが必要な地域はその半数であり、残りの半数の地域には公共交通機関が存在していたため、コミュニティバスの運行実現にはなかなか結びつかなかった。コミュニティバスの運行を通じて地域が一つになり、結果として生瀬を豊かにしようという考えのもと、各自治会の協力を得て、ようやくコミュニティバスの本格運行が実現した。地域を一つにするためには、町のシンボルになるものが必要であり、マスコットキャラクターを用いて地域活性化の取り組みを進めていきたいと考えている。

○会長

担当課の意見を聞きたい。

◇担当課：市民協働推進課

生瀬地域を盛り上げようという点については、担当課としてもありがたいと考えている。

担当課として懸念されるのは、今回の提案がマスコットキャラクターを用いたコミュニティバスの PR ではなく、地域の活性化を主目的としたものと捉えているが、市としてその中でどの程度関与が可能かという点については多少の疑問がある。

○会長

マスコットキャラクターを地域活動につなげるためのノウハウや全国の事例などを提案者に提供したり、事業内容に対するアドバイスを行ったりするのが有効ではないか。

○会長

時間が来たのでこれまで。結果は後日、事務局からお伝えする。

３番目の事業「**歴史建築観光サポーター育成事業 ～歴史的建造物探訪～** 」について

○会長

それでは、事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

提案者から PR をお願いしたい。

→提案者より PR あり。

では、委員から質問をお願いしたい。

○委員

サポーターの育成方法について伺いたい。

◇提案者

提案書に記載のとおり、座学と現地研修会を通じてサポーターを育成する。

○委員

今回の協働事業を通じて、どのような効果が得られると考えているか。

◇提案者

建物と市民の間を取りもつサポーターを育成することで、建物に興味のある市民を中心としたネットワークをつくり、建物の利活用につなげていきたいという想いがある。

○委員

他府県の方から西宮の観光地を紹介してほしいと言われたときに困ることがよくある。事前予約なしでいけるところが少ないうえに、私自身も詳しい説明をすることもできない。他の観光地に行くと、歴史的建造物などについて説明してくれる市民ボランティアがいるのに、西宮市ではそのような活動があまり多く見受けられない。甲子園球場には全国から人が集まるので、そのような方々に市内の観光地を案内してくれる市民ボランティアがいればいいなと常々感じている。このような活動をぜひ広げていただきたい。

○委員

収支予算書の自己資金欄に記載の会費等について伺いたい。

◇提案者

一人当たりの年会費が 5,000 円、会員数は 18 名である。当団体では、文化庁からの補助事業など別の活動にも取り組んでいるため、法人の会費収入等の一部を提案事業の財源に充てている。

○会長

近代建築物は、相続による売却や経年による解体などにより年々失われつつある。地域の資産として有効に活用してほしいと考える。登録有形文化財を中心に活動されているとのことであるが、西宮市は酒蔵のまちとして有名であり、これらを含めた景観・建物を幅広く事業の対象と考えているということで間違いないか。

◇提案者

当団体は、昨年と一昨年に文化庁の補助を受けて、登録有形文化財のホームドクター活動に取り組んだ。定期的な建物の点検や問題が生じた際の相談対応を行うというものであり、その中で様々なコネクションが生まれたこともあり、それらを主な事業対称にしているが、今後は、西宮の歴史的建造物全般を対象に活動を進めていきたいと考えている。今回の事業はその一環として捉えているが、専門家と建物の関係だけではなかなか広がっていかないので、そこに市民が介在することが重要と感じている。建築の分野は専門性が高いため、まずは建築物に関心の高い市民をサポーターとして養成し、養成されたサポーターが市民と建物の間にたって、建物の保存・活用や観光関係の活動に取り組むという流れにつなげたい。そして、我々はそれらをサポートする役割に撤していこうと考えている。

○会長

養成講座を受講したサポーターが動く仕組みやその組織化についてどのようなイメージを持っているか。

◇提案者

1～2 年では難しいかもしれないが、サポーターの数が増えてくれば観光サポーターのネットワークを構築し、観光案内ができる仕組み作りを目指したいと考えている。

○会長

この事業について担当課からのコメントがあれば伺いたい。

◇担当課：都市ブランド発信課

当課では、建築物の見学ツアーなどを提案者に依頼して実施してきた経緯がある。5 年ほど前から、市内の魅力的な場所をガイド付きで見学していただく観光プログラムを多数実施してきたが、その中でも建築物は非常に人気が高く、20～30 人程度の募集に対して 100 人を超える応募が全国から寄せられるなど、集客コンテンツとして非常に強いものがある。このたびの提案事業は、街の魅力の発信や地元への愛着の醸成につながるもので、市にとって渡りに船の内容である。提案団体と市が協働してこの事業に取り組むことで、養成されたサポーターが将来的に西宮の観光事業に関わっていただければと考えている。

○委員

建物は所有者の権利が強く、所有者が建物を改造するとなれば　サポーターとして非常に苦しいところがある。行政との連携などにより、所有者に対して改造をやめてもらうように求めることは可能か。

◇提案者

所有者の理解が得られるように、日頃から所有者とコミュニケーションをとって、信頼関係を構築していく必要がある。所有者・提案者・行政のトライアングルに歴史建築観光サポーターを加えたネットワークを構築することで、所有者と理解を共有しながらやっていけるものと考えている。

○委員

町中を歩いていると立派な建造物を目にすることがあるが、所有者の意思でそれらが売却・解体されるため、歴史的な建造物が失われつつある。サポーターや行政と協力して、歴史的建造物を守っていこうという活動に心から期待している。

○会長

時間が来たのでこれまで。結果は後日事務局からお知らせする。

以上の３つでプレゼンテーションを終了する。

〈第２部　審査〉非公開

○会長

では１番目の事業「**ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）養成から交流・実践活動へ**」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○委員

・この活動をどこまで広げていくかという点については、自分たちだけでやろうとするとなかなか難しいと思われる。地域のコミュニティ団体や社会福祉協議会などと連携したほうが、この活動をより広げることができるのではないか。地元での活動をしっかり固めておけば、「うちの地域にも来てほしい」と他地域から声がかかるようになり、結果的に広く活動を展開していけると思う。時間をかけてじっくり取り組んでいただきたい。

・既存の団体や組織では、行事や会合への出席などの負担が特定のメンバーに集中し、疲弊しているケースが多く見受けられる。組織に属さない人たちが小さなグループを立ち上げて、実績を積みながら活動範囲を広げていく、このようなグループがたくさん出てくることを期待している。応援したいと思わせてくれる事業である。

・ハンディキャップがある方の支援につながるものであり、採択すべき事業と考える。

・本格的な少子高齢社会を迎えるにあたり、大事な事業と考える。時間をかけて取り組むべき内容であり、行政と意見を交わしながら進めていってほしい。

○会長

・支える側に限らず、支えられる側を含めてみんなの生きがいにつなげようという考えが評価できる。その方向で事業を進めていただきたい。

○会長

では、２番目の事業「**『ぐるっと生瀬』地域活性化事業**」について、採点結果は採択となるが、意見をお伺いしたい。

○委員

・審査基準に照らすと、先駆性、公益性は高く、行政が支えるべき活動として協働の妥当性も高いものと考える。しかし、実現可能性と協働による効果については、もう少し練ってもらう必要があるのではないか。提案者の PR において、市に頼らずに地域の力で頑張らないといけないとの発言があったが、例えば、コミュニティバスが必要のない自治会も含め、生瀬地域全体で応援金を募るという方法もあるのではないか。地域住民がコミュニティバスや町の活力を支えているということで、町の PR にもつながると思われる。

・地域が一つになることは大切なことであり、コミュニティバスをきっかけとして、地域をまとめるための活動に大いに期待している。

・ゆるキャラの作成が目的の事業に見えてしまう。生瀬の地域活性化を図ろうというのであれば、着ぐるみ一体に 10 万円をかけるよりも、もっと効果的な方法が考えられるのではないか。

・新しい試みであり、住民の方々の幸せを考えていくという点では市の役割もあると思うが、あくまで地域が主体となって取り組むべき内容と考える。市としては影からの応援しかできず、協働による効果はあまり期待できないのではないか。

・ゆるキャラの力は非常に大きい。地域の商店街でゆるキャラを作ろうという話が出た際に、当初はゆるキャラの作成に懐疑的な方もいたのだが、実際に作成したところ、子供たちが非常に喜び、また、様々なイベントにゆるキャラが出演することで地域の PR にもつながった。ゆるキ

ャラを通じて生瀬地域が頑張っていることを PR し、それを多くの方に評価してもらうことで、さらに地域が団結するという効果もあると思われる。

○会長

・マスコットキャラクターをきっかけに地域活性化を様々な形で展開してほしい。

・コミュニティバスは、地域住民にとって重要な基盤であり、キャラクターを活用して、バスを支えていこうという意識や、自分たちの力で地域を豊かにしていこうという意識を地域で醸成してもらいたい。

・ゆるキャラを作成しておしまいではなく、そこから地域活性化につなげるためのやり方やノウハウ、役立つ情報を提案者に伝えるのが市の役割であると考える。

○会長

では、３番目の事業「**歴史建築観光サポーター育成事業 ～歴史的建造物探訪～**」について、採点結果は採択となるが、意見をお伺いしたい。

○委員

・サポーターを養成した次の段階が見えてこない。講座を実施することだけでなく、その先の展開に関する考え方を示してほしかった。

・良い取り組みと思うので、サポーターを養成した後の展開も含めて頑張っていただきたい。

・事業実施後のフォローをどうするか、この活動を西宮市にどのように根付かせるかということをしっかりと考えていただきたい。

・失われつつある歴史的建造物を守っていこうとする活動は非常に大事なことであり、市が積極的に応援すべき内容である。歴史的建造物が解体された後にマンションが建設されることで、市の財政は人口増により豊かになるかもしれないが、古き良き建造物を次の時代に残していくのは私たちの役目の一つであり、できる限りのことを市は行うべきである。

○会長

・専門性と実行力を有した団体であり、市側も協働で実施したいという意向があることから、うまくやっていただければと考える。対象を登録有形文化財に限定せずに、幅広く実施していただきたい。

○会長

それでは、審査結果について、事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。